

## ■ 岩盤分類に関するデータの収集

岩盤分類の見直しのために収集したデータは以下の通りである。

	平成3年度までのデータ (平成5年度版積算資料)	平成4年度以降のデータ	計
現場数	14箇所	25箇所	39箇所
杭本数	212本	450本	662本
データ数	277データ	471データ	748データ
地質の種類	13種類	13種類 (新たに7種類)	20種類

平成11年12月現在

収集したデータの地質区分において、中硬岩・硬岩Ⅰは「中・塩基性火成岩類」「中・古生層」のデータが多く、硬岩Ⅱは「酸性火成岩類」のデータが多い。

下図は、収集したデータから「地質区分別に示した岩盤分類ごとの掘削時間」である。

硬岩Ⅱは、掘削時間に著しいばらつきが見られ、特に掘削時間が250分/mを越す工事は、掘削能力を上回った岩盤を対象としているものと推測される。これらの工事は、本来発破掘削が行われるべきではあるが、人家が近接したりして、岩盤削孔によって施工されている例であることが多く、また、山岳地における工事でも、構造物の大型化に伴って岩盤を対象にした基礎になることが多くなりつつある。

このように、硬岩Ⅱには軟岩Ⅰから硬岩Ⅰにいたる岩盤の程度に応じた掘削時間の上昇カーブの延長線上にあるものと、極端に掘削時間が大きいものがあり、この2つのグループを同列に取り扱うことは無理があると考えられる。そのため、報告書では、硬岩を3分割することを提案している。